



Your dreams. Woven together.

2011年6月期 決算説明

2011年8月12日

(証券コード:7747 東証二部、名証二部、ジャスダック)



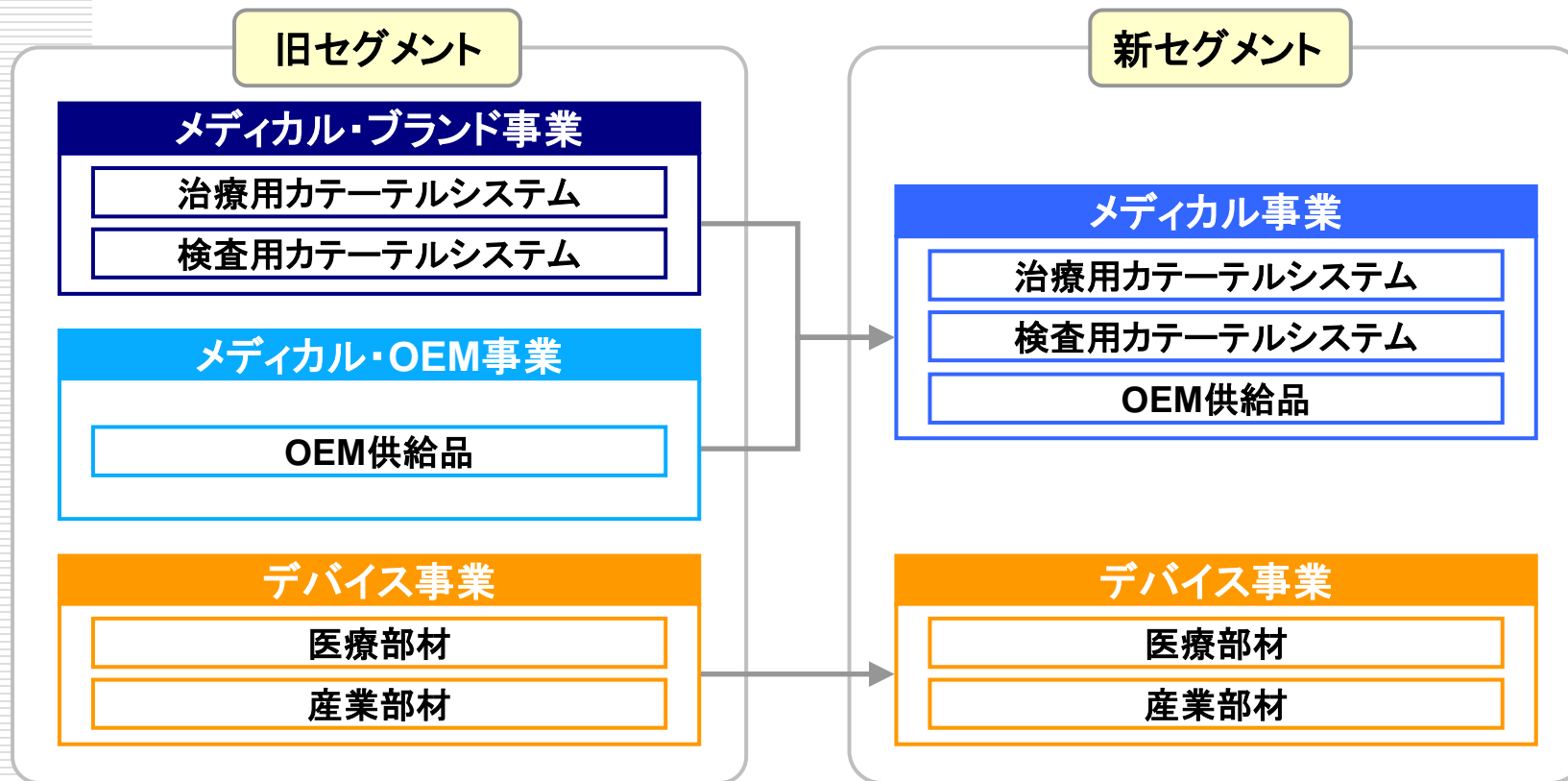
1. 2011年6月期連結決算の概要

2. 2012年6月期連結業績見通し



事業セグメントの変更について-1

- 組織形態の変更等に伴い、2011年6月期より下記のセグメント区分に変更致しております。



- 以下資料上における留意事項
 - セグメント別の前年同期比較にあたっては、前期数値を変更後の区分に組み替え表記しております。

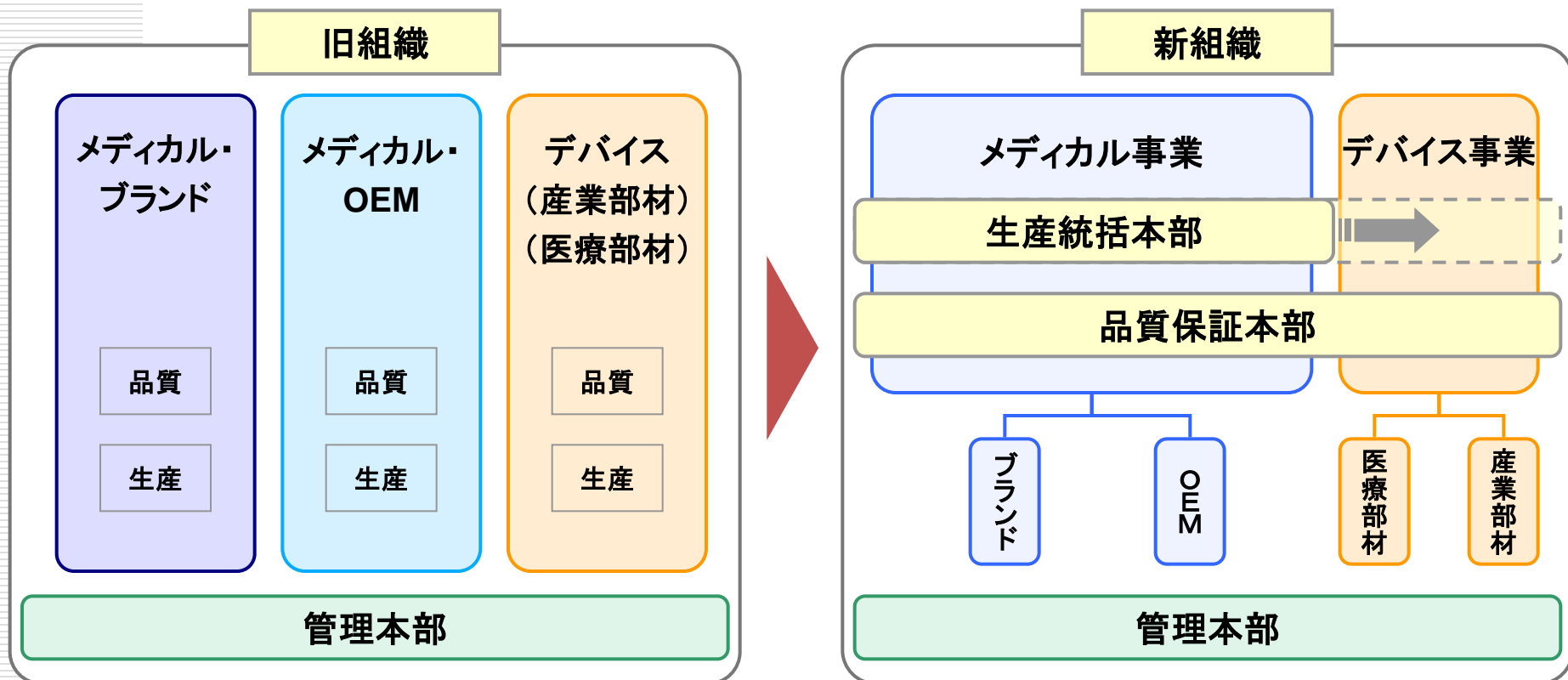


事業セグメントの変更について-2

(要因: マトリックス組織形態への移行)

■ 組織変更の内容と目的

- 横断的組織として、「生産統括本部」及び「品質保証本部」を設立
- マトリックス組織への移行をはかることにより、開発・生産・品質・販売の役割を明確化し、製品開発のスピードの向上、生産性の向上を目指す





2011年6月期決算のポイント

- 売上高は16,007百万円(前年同期比+4.4%)と堅調に推移
 - 増収分野: 医療機器分野 減収分野: 産業機器分野
 - 医療機器分野は、主に自社ブランド製品が国内を中心として好調に推移
 - 数量の増加により、円高ドル安の為替影響(△591百万円)や、医療償還価格下落に伴う国内売価下落によるマイナス影響(△506百万円)をカバー

- 円高ドル安影響・償還価格下落などの逆風あるも2ケタ増益を確保
 - 営業利益は3,247百万円(前年同期比 +10.9%)
 - 研究開発費用(1,873百万円)の増加(前年同期比+568百万円、売上高比率11.7%)
 - 朝日インテック・ジーマ連結子会社化(2010年1月～)により
販管費が増加(同+114百万円)(研究開発費除く増加 同+56百万円)
 - 円高為替についてタイパーツに比べてドルの動きが強く営業利益にマイナス影響あり(△470百万円)
 - (参考:組織変更に伴う売上原価から販管費への費用区分変更による影響額は約722百万円)

 - 経常利益は3,164百万円(前年同期比+13.6%)
 - 営業外費用に円高の影響による為替差損125百万円を計上(前年同期比△21百万円)

 - 当期純利益は2,161百万円(前年同期比+44.3%)
 - 特別損失:資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額30百万円、投資有価証券評価損274百万円を計上
 - 前期は特別損失に減損損失(大阪土地)284百万円、前期損益修正損(在庫関係)76百万円を計上



決算ハイライト

	2010年6月期 実績		2011年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	15,339	100.0	16,007	100.0	+667	+4.4
売上総利益	8,676	56.6	*10,675	66.7	*+1,998	+23.0
営業利益	2,929	19.1	3,247	20.3	+318	+10.9
経常利益	2,785	18.2	3,164	19.8	+379	+13.6
当期純利益	1,497	9.8	2,161	13.5	+663	+44.3
EPS	94.49円	-	136.36円	-	-	-

* 当期から、組織変更に伴い、売上原価から販管費への費用区分変更を行っております。今期実績に与える影響は約722百万円となります。

* 変更前 売上総利益	8,676	56.6	9,952	62.2	+1,275	+14.7
----------------	-------	------	-------	------	--------	-------



セグメント別売上高

	2010年6月期 実績		2011年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
メディカル事業	12,303	80.2	12,824	80.1	+520	+4.2
デバイス事業	3,035	19.8	3,182	19.9	+146	+4.8
合計	15,339	100.0	16,007	100.0	+667	+4.4

(参考)

医療機器分野	13,442	87.6	14,248	89.0	+805	+6.0
産業機器分野	1,896	12.4	1,758	11.0	△137	△7.3



セグメント別営業利益

	2010年6月期 実績		2011年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
メディカル事業	3,792	85.2	3,630	77.5	△162	△4.3
デバイス事業	659	14.8	1,056	22.5	+397	+60.3
計	4,451	100.0	4,687	100.0	+235	+5.3
消去・全社	△1,522	-	△1,439	-	+82	△5.4
合計	2,929	-	3,247	-	+318	+10.9



セグメント別営業利益(一部調整後)

	2010年6月期 実績 ^{*1}		2011年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
メディカル事業	3,692	85.1	3,630	77.5	△61	△1.7
デバイス事業	647	14.9	1,056	22.5	+408	+63.1
計	4,339	100.0	4,687	100.0	+347	+8.0
消去・全社	△1,410	-	△1,439	-	△29	+2.1
合計	2,929	-	3,247	-	+318	+10.9

***2**
セグメント間
取引の影響

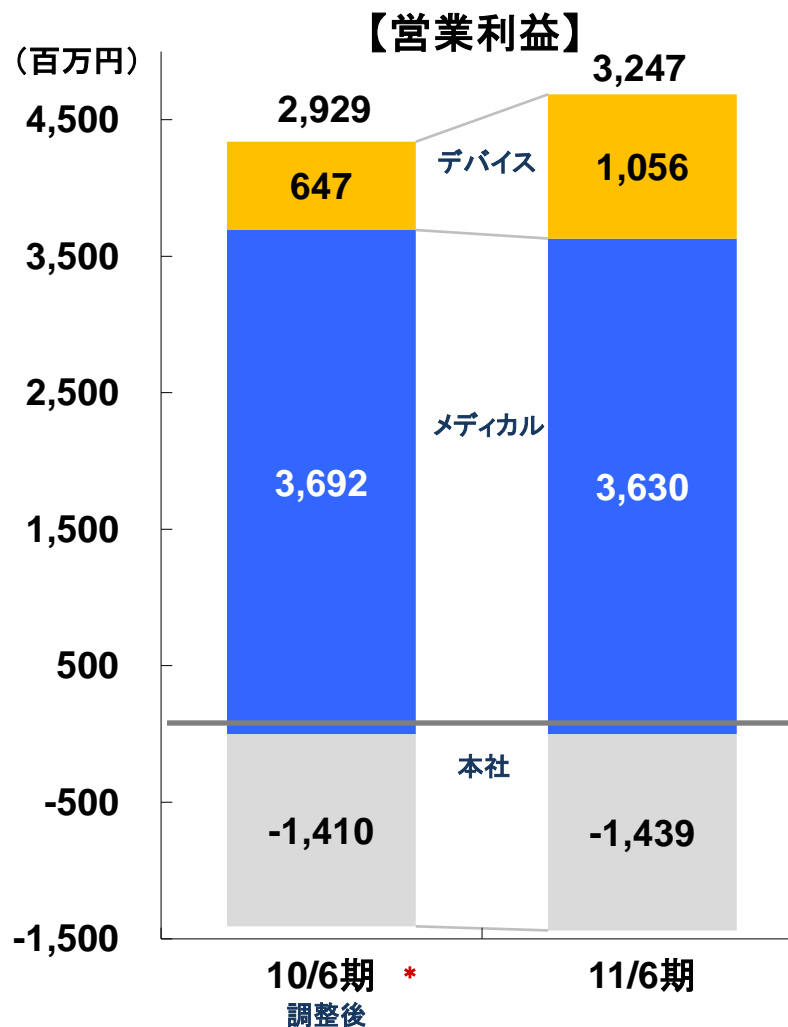
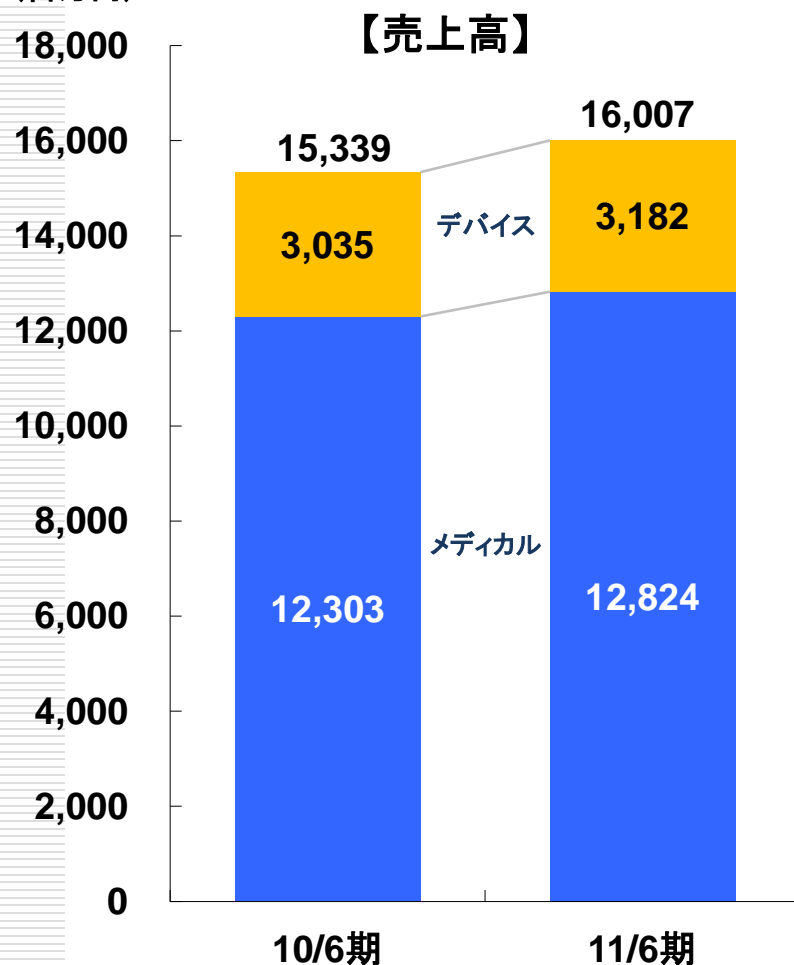
***1** 全社的な研究開発を行なう基盤技術グループの費用について、10/6期までは全社セグメントに計上されておりましたが、11/6期より各セグメント区分に変更しており、よって10/6期の実績について11/6期基準に変更して表記しております。

***2** 当社グループでは、メディカル事業の一部の製品に対する部材供給(下請)をデバイス事業が行っており、よってメディカル事業の外部売上高に対応する利益の一部は、デバイス事業に計上されることとなります。デバイス事業に計上されている当該利益は前年同期に比べて増加傾向(約+130百万円)にあります。



セグメント別の収益状況（一部調整後）

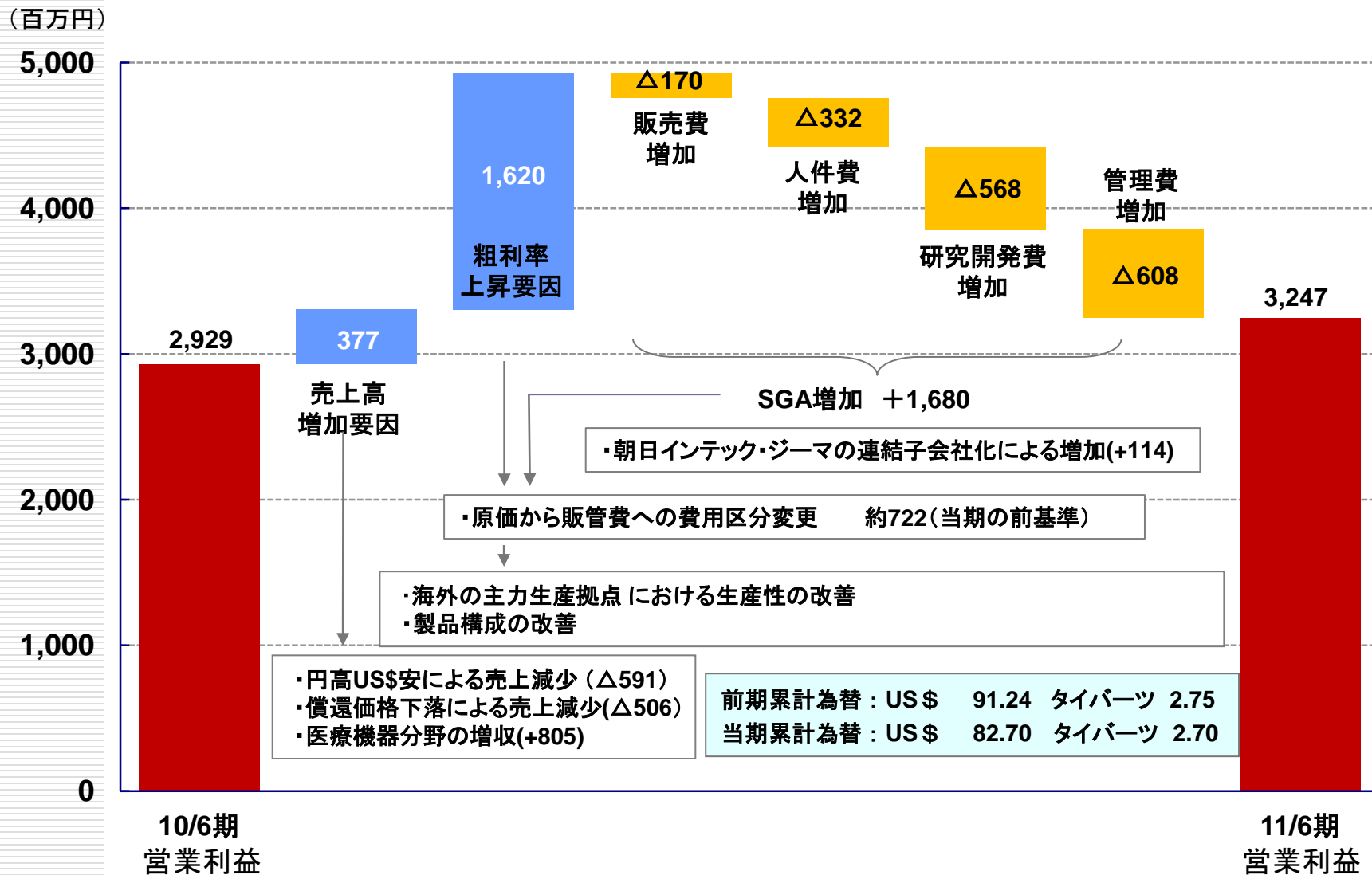
(百万円)



* 全社的な研究開発を担う基盤技術グループの費用について、10/6期までは全社セグメントに計上されておりましたが、11/6期より各セグメント区分に変更しており、よって10/6期実績について11/6期基準に変更して表記しております。

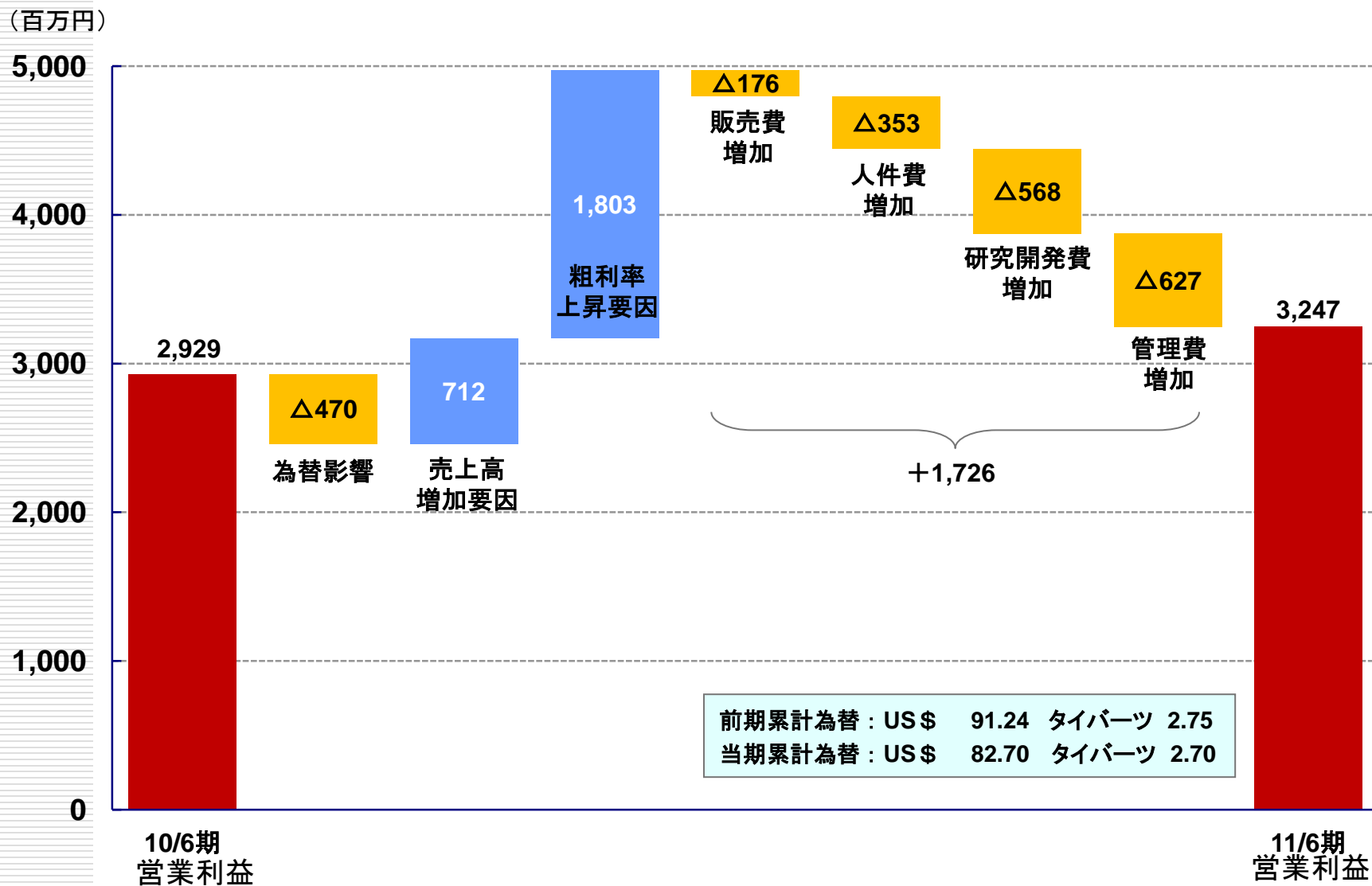


営業利益増減要因分析-1 (為替の影響を含む)





営業利益増減要因分析-2(為替の影響を除く)

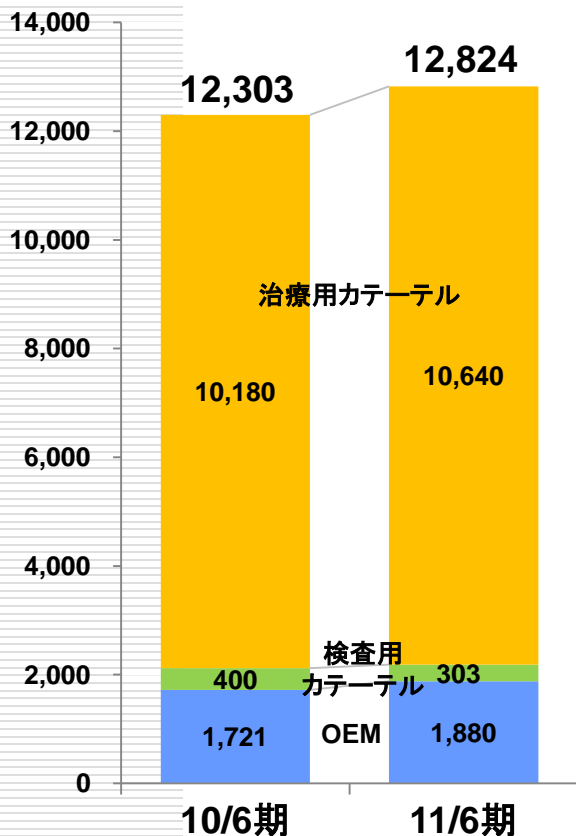




メディカル事業の状況

(百万円)

【売上高】



■ 国内は順調に推移、海外は為替の影響を受け減少

- 売上高12,824百万円(前年同期比+520百万円、同+4.2%)
- 営業利益3,630百万円(調整後前年同期比△61百万円、同△1.7%)
- 円高ドル安の影響(△467百万円)

及び償還価格下落の影響(△506百万円)を受けるも好調に推移

■ 治療用カテーテル製品

- 10,640百万円(前年同期比+459百万円、同+4.5%)
- PTCAガイドワイヤーは国内増加、海外は為替影響で減少
- 国内:循環器系を中心に幅広い患部領域の製品が好調
 - 償還価格のマイナス影響を払拭し売上好調
 - 貫通カテーテルCorsairは前下半期から販売開始により好調に推移
 - 末梢血管系・脳血管系など循環器系以外の領域も好調に推移
- 海外:円高ドル安の影響あるも、販売数量増加で売上高はほぼ横ばい
 - 中国向けは為替影響を払拭し売上好調
 - 貫通カテーテルCorsairは米国・欧州・アジアなどで販売好調

■ 検査用カテーテル製品

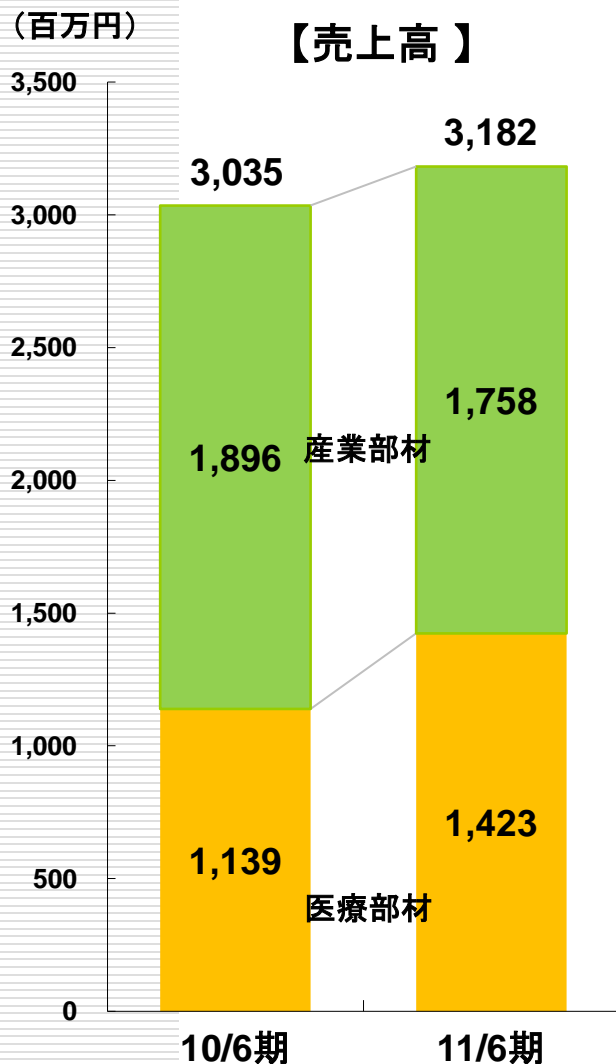
- 303百万円(前年同期比△97百万円、同△24.3%)
- 海外向け検査用カテーテルは会社方針により縮小傾向

■ OEM供給品

- 1,880百万円(前年同期比+158百万円、同+9.2%)
- 国内向け製品は増加するものの、海外向け末梢血管系製品が減少
 - 国内:テルモ社向けミニガイドワイヤー・内視鏡処置具が好調に推移



デバイス事業の状況



■ 医療機器分野を中心に増加傾向

■ 産業機器分野は高付加価値製品へのシフト、販売価格見直しに注力

- 売上高3,182百万円(前年同期比+146百万円、同+4.8%)
- 営業利益1,056百万円(調整後同+408百万円、同+63.1%)
- 円高ドル安の影響(△123百万円)を受けるも好調に推移

■ 産業部材

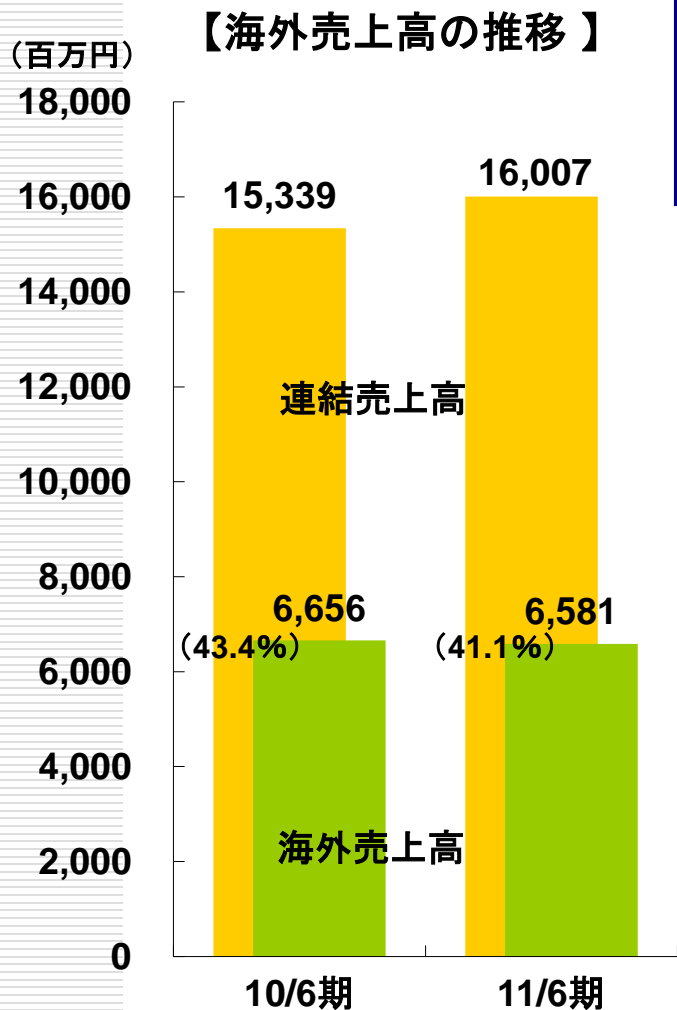
- 1,758百万円(前年同期比△137百万円、同△7.3%)
- 海外向けベビーカー用部材や家電エアコン用ロープ、国内向け環境対応車への部材供給が増加
- 一方、海外向けOA機器製品、国内向け釣糸が減少

■ 医療部材

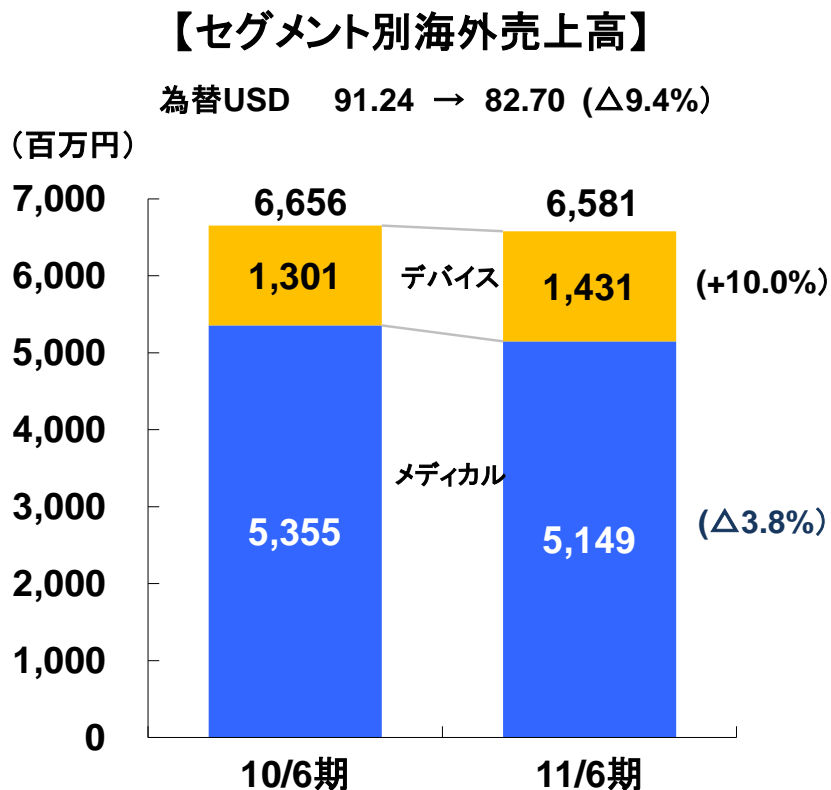
- 1,423百万円(前年同期比+284百万円、同+25.0%)
- ジーマ社の連結子会社化(2010年1月)による増加 +216百万円
- 米国向け腹部治療用や耳鼻咽喉科関係医療部材取引が増加



海外売上高の状況



- 海外売上高は△75百万円(前年同期比△1.1%)
 - 円高ドル安による売上高減少の影響 △591百万円
 - 為替影響を除いては順調に推移
 - メディカル事業では特にアジア向けが好調に推移





損益の状況

	2010年6月期 実績		2011年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	15,339	100.0	16,007	100.0	+667	医療機器分野の増収
売上原価	6,662	43.4	5,332	33.3	△1,330	一部販管費への移動あり 約△722
売上総利益	8,676	56.6	10,675	66.7	+1,998	製品構成の変化、生産性向上 など
販管費	5,747	37.5	7,427	46.4	+1,680	研究開発費の増加 +568 売上原価からの移動 約+722
営業利益	2,929	19.1	3,247	20.3	+318	
営業外収益	98	0.6	110	0.7	+11	
営業外費用	243	1.6	193	1.2	△49	支払利息の減少 △23 為替差損の減少 △21
経常利益	2,785	18.2	3,164	19.8	+379	
特別利益	31	0.2	25	0.2	△6	
特別損失	571	3.7	322	2.0	△249	投資有価証券評価損 +201 前期損益修正損 △76 減損損失(大阪土地) △284 固定資産除却損 △63
当期純利益	1,497	9.8	2,161	13.5	+663	



財務の状況

		2010年6月期 実績		2011年6月期 実績			
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産		12,253	55.7	13,687	56.4	+1,433	有価証券(譲渡性預金)の増加 +750 たな卸資産の増加 +839 繰延税金資産の増加 +81
	固定資産	9,757	44.3	10,592	43.6	+834	有形固定資産の増加 +794 (瀬戸工場隣地392・タイ新工場445)
資産合計		22,011	100.0	24,280	100.0	+2,268	
流動負債		5,245	23.8	5,103	21.0	△142	支払債務の増加 +93 短期借入金 △389 未払法人税等の増加 +113
	固定負債	3,511	16.0	4,278	17.6	+766	長期借入金 +494 繰延税金負債の増加 +119
負債合計		8,757	39.8	9,381	38.6	+623	
純資産合計		13,253	60.2	14,898	61.4	+1,644	利益剰余金の増加 +1,765 為替換算調整勘定の増加 △337
負債・純資産合計		22,011	100.0	24,280	100.0	+2,268	



キャッシュ・フローの状況

(百万円)

10,000

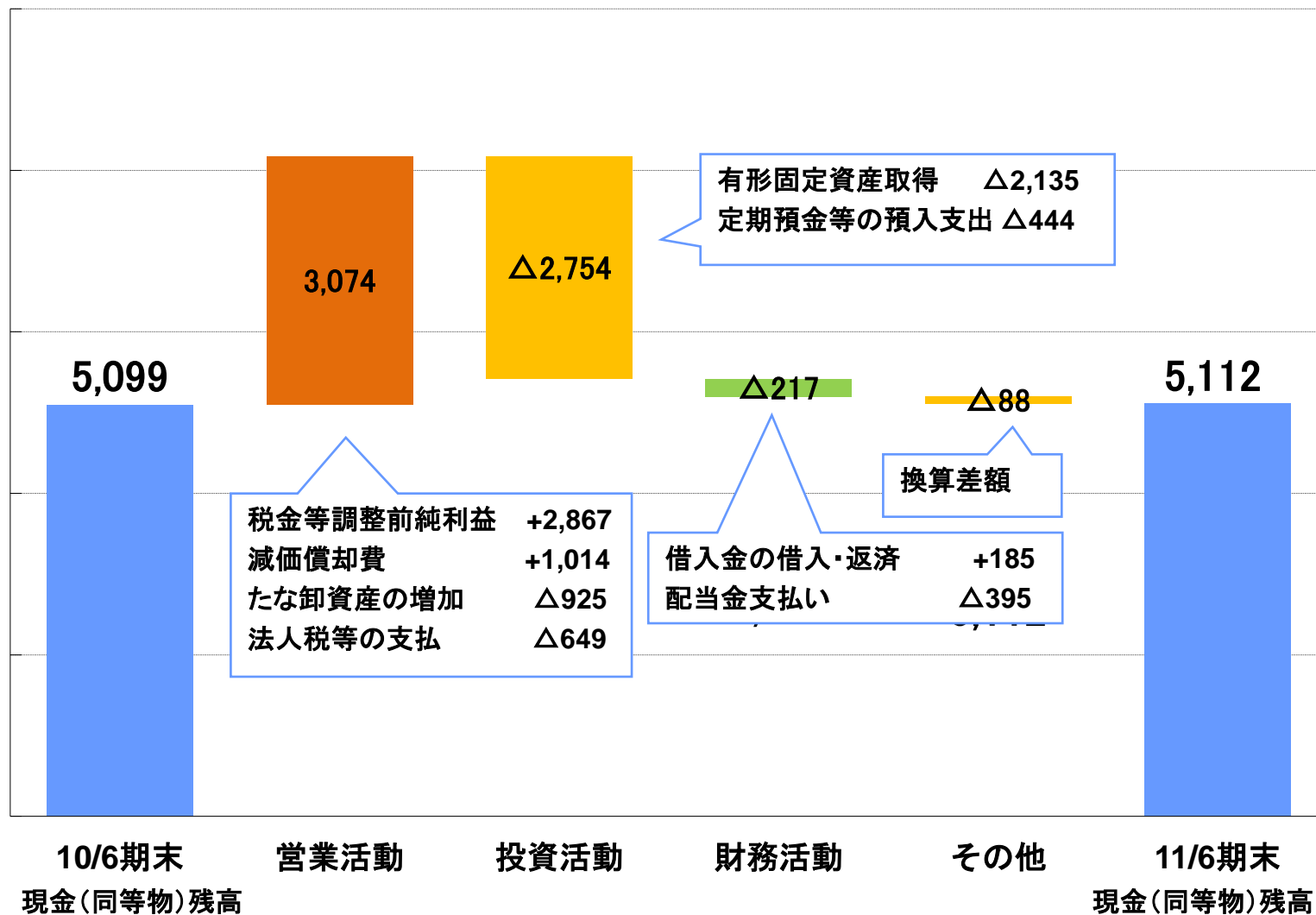
8,000

6,000

4,000

2,000

0





1. 2011年6月期連結決算の概要

2. 2012年6月期連結業績見通し

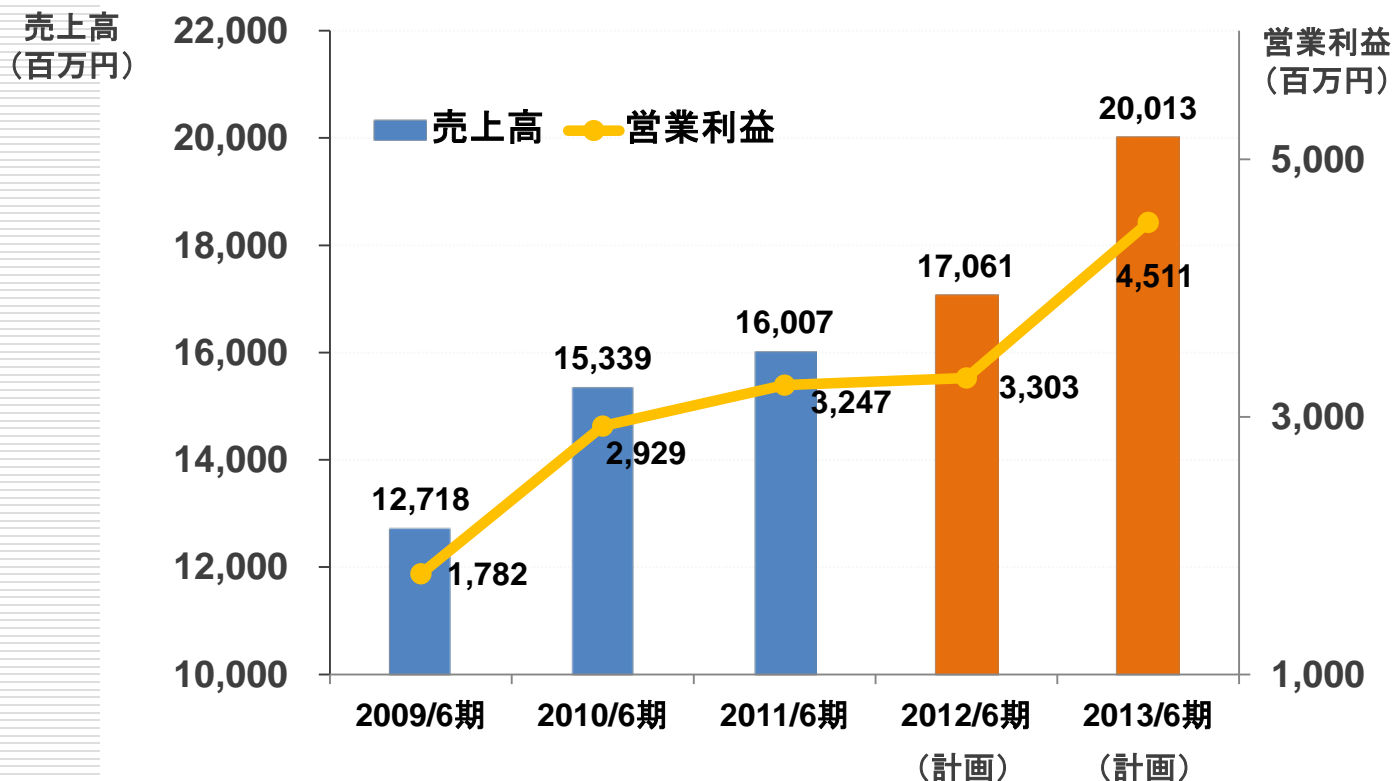


2012年6月期決算の見通し-1

- 「Next Stage 2016」 初年度として中期経営計画に即した事業展開を実施
中期経営計画「Next Stage 2016」(2011年5月開示)

対象期間：2012年6月期～2016年6月期

テーマ：～低侵襲治療を機軸とし、開発から製造・販売まで
トータルサポートできるグローバル医療機器企業へ～





2012年6月期決算の見通し-2

- 売上高は17,061百万円(前年同期比+6.6%)を見込む
～日本・欧州地域の販売方法の切替など重要な方向転換を実現予定～

<増収要素>

- 海外市場において日本の成功事例を積極的に展開予定(SIONシリーズ、CHIKAIなど)
- 国内市場では腹部血管系製品やバルーンカテーテルなどの新製品を段階的に投入予定

<減収要素>

- 主力製品PTCAガイドワイヤーの販売方法の変更に伴う一時的なマイナス要素あり
 - 日本市場:2012年2月～完全直販化を実施(直接販売は1月～実施。1月は併売)
 - ⇒ 代理店より病院預け在庫の買取が発生
 - 欧州市場:2011年7月～地域密着型の現地代理店を通じて販売
 - ⇒ リスクを最大限に加味
- 償還価格約10%下落(影響額△214百万円)



2012年6月期決算の見通し-3

- 研究開発及び営業費用の積極的投下により営業利益はほぼ横ばいに推移
 - 営業利益は3,303百万円(前年同期比+1.7%)
 - 将来の成長性を持続し、さらに加速化させるための先行的な費用を複合的に投下
 - 研究開発費用：カテーテル分野の強化に向けて積極的な費用投下(売上高比率11.7%)
 - 営業費用：主に国内の直販化に伴う人員及び諸経費の増加
 - 経常利益は3,297百万円(前年同期比+4.2%)
 - 当期純利益は2,165百万円(前年同期比+0.2%)
 - 営業外収支・特別損益において大きな取引予定は無し

為替の前提

11/06(実績) : US\$	82.70 円	タイバーツ	2.70 円	
12/06(計画) : US\$	82.50 円	タイバーツ	2.70 円	
	Euro	110.0 円	中国元	12.50 円

為替変動による営業利益の影響・概算(主な通貨のみ)

US\$ (+1円の影響)	: 約52百万円増加
タイバーツ(+0.1円の影響)	: 約90百万円減少

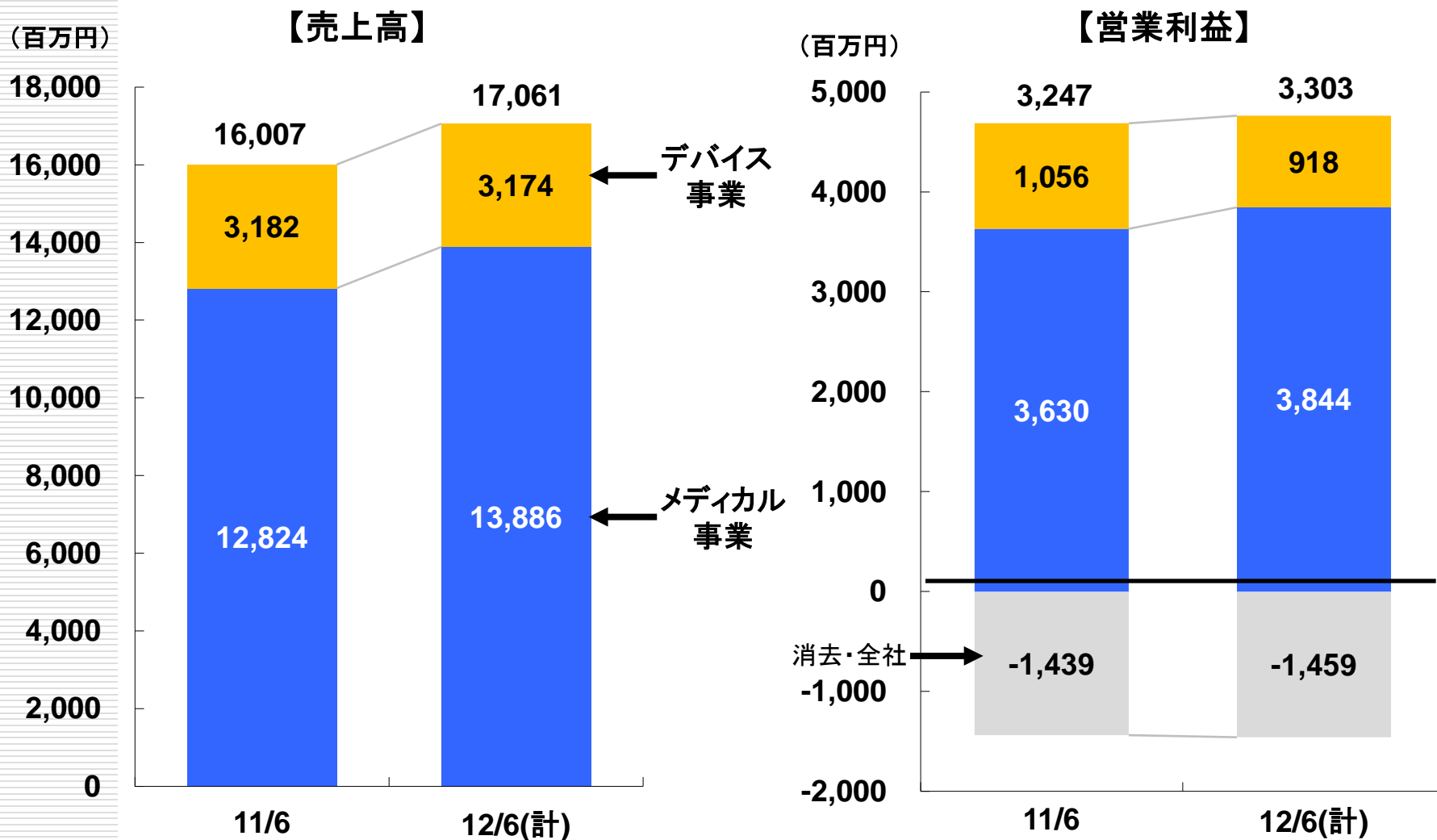


2012年6月期業績見通し

	2011年6月期(実績)		2012年6月期(計画)			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	16,007	100.0	17,061	100.0	+1,054	+6.6
売上総利益	10,675	66.7	11,236	65.9	+560	+5.3
営業利益	3,247	20.3	3,303	19.4	+55	+1.7
経常利益	3,164	19.8	3,297	19.3	+132	+4.2
当期純利益	2,161	13.5	2,165	12.7	+3	+0.2
EPS	136.36円	-	136.59円	-	-	-

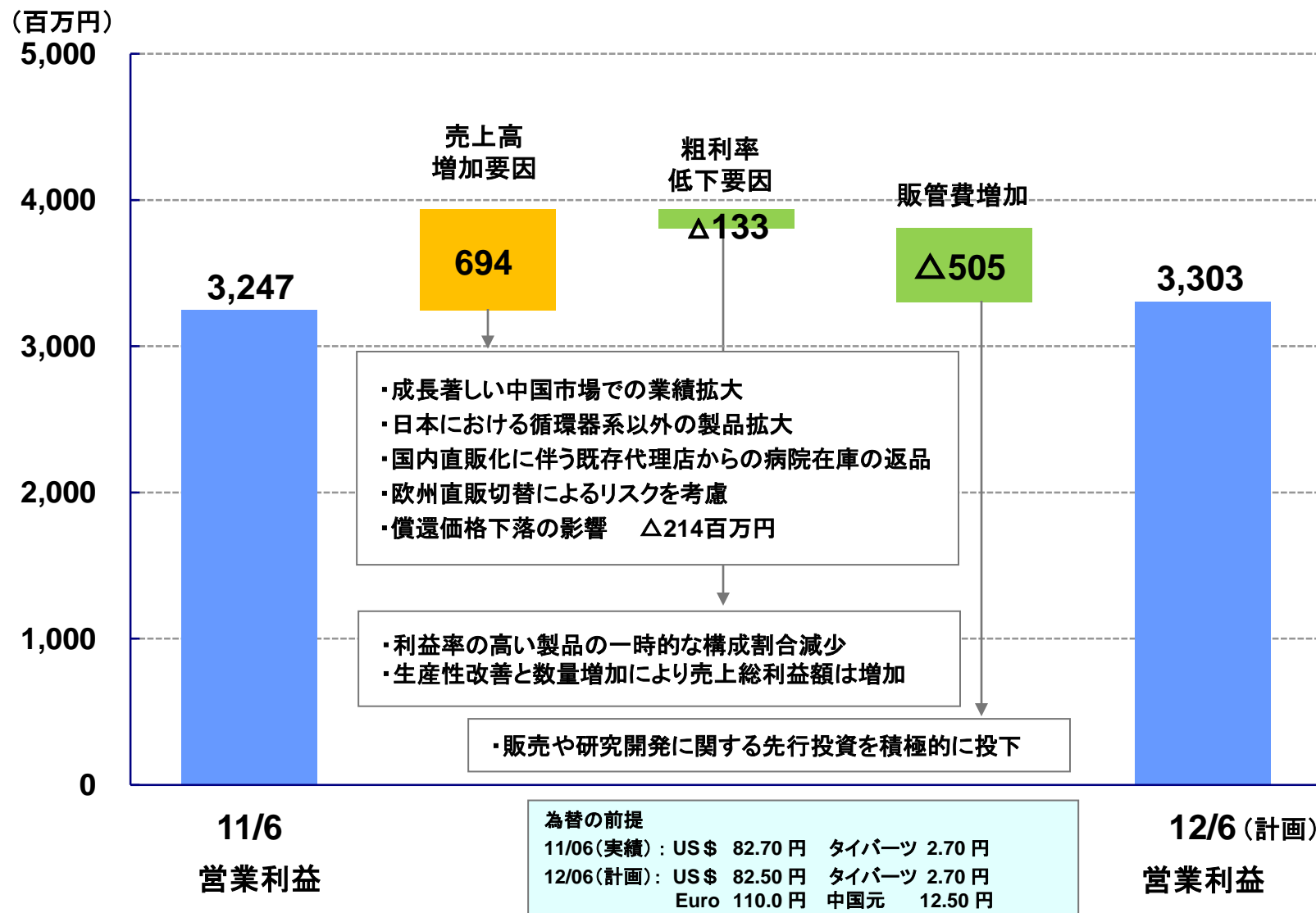


セグメント別の収益見通し





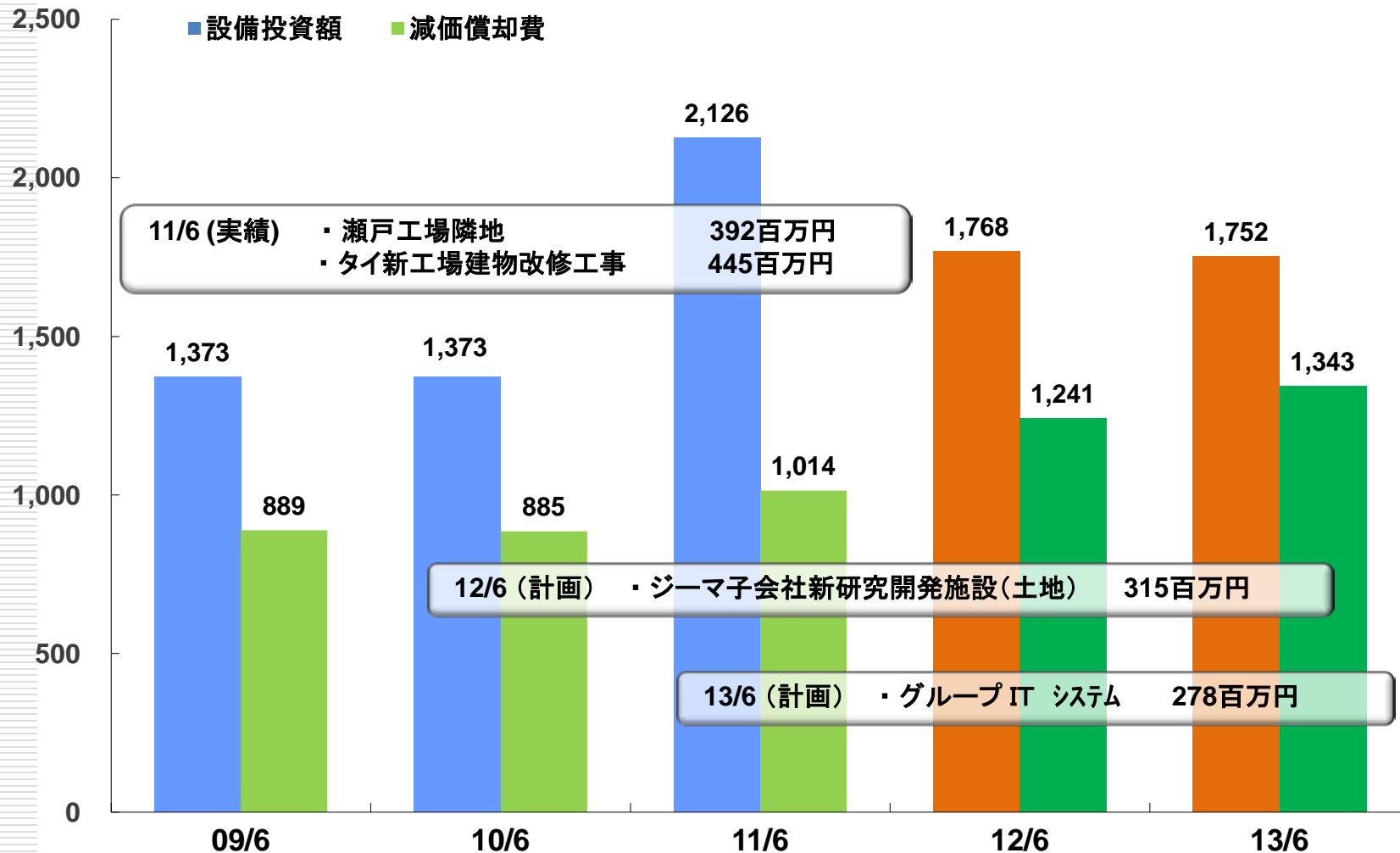
12/6期計画の営業利益増減要因分析





設備投資の実績及び計画

(百万円)



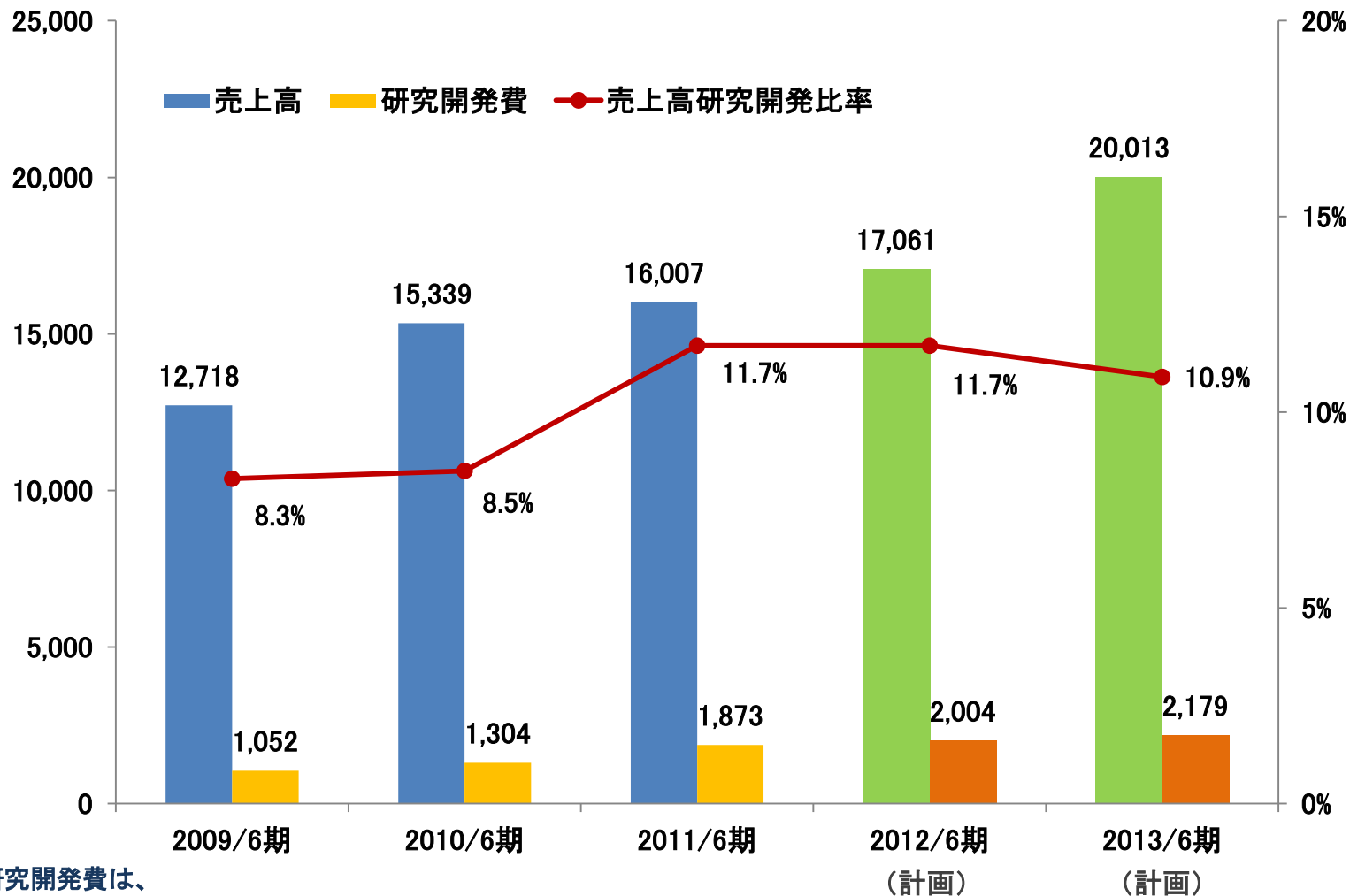
* : 12/6期の設備投資額・減価償却費は、
2011年5月開示の中期経営計画から、現在状況を加味し、数値変更を行っております。



研究開発費の推移

売上高・研究開発費
(百万円)

売上高研究開発比率
(%)



*: 12/6期の研究開発費は、2011年5月開示の中期経営計画から、現在状況を加味し、数値変更を行っております。



本資料における注記事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。
実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

朝日インテック株式会社 経営戦略室

TEL 052-768-1218 (Direct)

URL <http://www.asahi-intecc.co.jp/>